

新潟職能短大通信

『新不思議な建物(その1)』

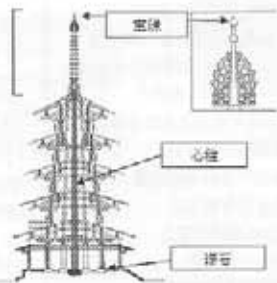
今回は、不思議な建物を二回に分けて、ご紹介したいと思います。

ひとつは「五重塔」と、もう一つは会津若松市の飯盛山に建つ「石灯籠堂」です。これらの建物を当校の総合制作実習で取り上げ、構法の調査と内部の構造が良くわかる模型の製作を課題としています。



法隆寺五重塔模型

日本人なら誰もが三重塔、五重塔の美しさに心を動かされると思います。木で作られたそれらの塔は、「木塔」と呼ばれています。その建物は、地面に埋められた「礎石」という石の上にアンカーボルトも無くただ置いてあるだけなのです。大きな地震のときに、この



法隆寺五重塔断面図

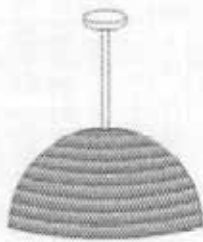
ような縦に細長い建物が揺れたら、簡単に倒れるような気がしませんか。実は、全国各地に多くの五重塔や三重塔が建てられています。三重塔が建てられたという記録は一つも無いのです。

何のために建てられた？

五重塔は一体何のために作られたのでしょうか。ほとんどの五重塔や三重塔の内部には、はしごや階段は無く、それぞれの重には床板さえ張られていないのです。これは、上に上るため、眺めるための建物なのです。塔の中心に「心柱(しんばしら)」と呼ばれる一本の柱が有ります。法隆寺五重塔の心柱は、三本を繋いで

一本にしています。上から下までつながっているのは、この心柱だけです。他の柱は、全て短い柱が下の重の屋根の上から立っています。木塔の重要な部分は、心柱の礎石の下に埋められている「お釈迦様にかかわりのあるもの」と、五重の屋根の一番上についている大切な「宝珠(ほうじゅ)」です。そして、「木塔はそれらを支える鞘(さや)」です。

「つつかえ棒」なものです。インドの墓であるストゥーパが、中国に渡り「卒塔婆」という漢字が当てられ、そして日本には「卒塔婆」「塔婆」そして「塔」として伝えられたものなのです。



インドのストゥーパ

倒れない理由は不明

地震で倒れない理由はいろいろと言われていますが、実は詳しいことは未だわかっていないのです。今でも建築構

造研究者のグループ(五重塔を揺らす会)が実物の五分の一という大きな模型を大型震動実験台で揺らして実験を繰り返しています。また、ある研究者は実物の三重塔にセンサーを付けて大きな地震が来るのを待っています。

総合制作実習では、今から約千三百年前に建立された法隆寺の五重塔を取り上げました。

五重塔は世界で一番古い木造建築物といわれ、また後世の木塔に比べてシンプルな造りをした非常に美しい塔なのです。四人の学生が取り組む、三十分の一の模型を見事に完成させてくれました。新潟県には、中条町の乙宝寺と上越市の五知洞分寺に三重塔が、佐渡の妙宣寺に五重塔があります。次に見る機会がありましたら、地震で倒れない不思議な塔であることを思い出しながら木塔をご覧になってはいかがでしょうか。

次回は、会津若松市の「さざえ堂」についてご紹介します。

参考資料・新潮選書「五重塔はなぜ倒れないか」

上田篤 編

新潟職業能力開発短期大学校 住居環境科 金子昭夫